

## 「掃除の神様」から学ぶこと

『耕人塾』の実践活動は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」ですが、今回は、「掃除の神様」と呼ばれているイエローハット創業者の鍵山秀三郎(かぎやまひでさぶろう)さんのことについて書きます。

鍵山さんは昭和18年東京都に生まれ、疎開先の岐阜県立東濃高校を卒業し、28年デトロイト商社に入社します。しかし、会社の経営方針に反発して36年ローヤル(現「イエローハット」)を創業し、自転車一台の行商から東証一部上場に発展させた人です。その間、50年以上に及ぶ掃除の実践は世界的な広がりを見せ、「掃除の神様」と呼ばれています。若干28歳で社長ですから順風満帆(じゅんぷうまんぱん)の人生のようですが、実は波瀾万丈(はらんばんじょう)の人生で、「今振り返ると、人はいない、物はない、資金はない、徒手空拳(とじゅくうけん)のスタートでしたが、何もなかったからこそ良かったのだと、つくづく感じます。(略)成功と失敗を分けるのは、その人の能力の差ではなく、どれだけ真剣であるかどうか、その度合いの差に他なりません。人間、能力なんかなくても、真剣に努力すれば何でも実現できるのです。」と語っています。

鍵山さんは若い頃、不条理(ふじょうり)・不合理(ふごうり)・不都合(ふごう)に何度も遭遇(そうぐう)したそうです。そのようなとき、自分の努力で解決するのだと決意して「掃除」をやり続けたそうです。鍵山さんは、創業当初のことをこのように話しています。「はじめは掃除にも手が回らなくてお世辞にもきれいな店とは言えませんでした。しかし、掃除を続けるようになって店がきれいになるとお客さんの層が変わったのです。これまでどちらかというと粗暴な人が多かったのですが、3年掃除を続けた時から、次第に上品な方々が来てくれるようになり、売り上げも伸びてきました。お店をきれいにするによって、お店の雰囲気も変わり、明らかに客層も変わってきたのです。掃除には人を呼び寄せる不思議な力がある。そう確信した瞬間でした。」



『耕人塾』の「挨拶・清掃・ゴミ拾い」の実践活動を続けて7年目になり、地域の方々にもその輪が広がりつつあります。その輪をさらに広げていくために、鍵山さんから学んだことを3点にまとめると次のようになります。

- ① 自ら実践する：これは今年度の『耕人塾』のコンセプトである「主体性」に繋がります。
- ② 工夫する：「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の輪を広げていくためにさらに工夫してみよう。
- ③ 継続する：真剣な努力を継続すれば必ず「世界に誇れる石巻地域」になると信じています。

鍵山さんは「凡事徹底(ばんじてい)」とも言っています。第7期『耕人塾』もあと3回ですが、「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」を家庭や学校でも継続できたら素晴らしいですね。

## 「幸せの法則」前野隆司著(慶應義塾大学教授)から

日本の実質GDP(国内総生産)は60年で約6倍になっているにもかかわらず、生活満足度はほとんど変わっていないそうです。60年前というと私が小学生の頃です。当時は着ている物も継ぎ接ぎだらけで、雨が降っても傘がなかったり弁当を持っていくことができなかつたりする人が沢山いました。今はカラーテレビも自家用車もどこの家にもあり、物の豊かな時代になりました。それなのにどうして生活満足度が上がらないのでしょうか。

前野先生は次の四つの因子が「幸せの法則」と言っています。①「やってみよう！」(自己実現と成長の因子)人生の大きな目標を実現させるために学習・成長しようとしている。②「ありがとう！」(繋がり感謝の因子)人に感謝して、人のために何かしたいという気持ちを強く持ち多くの人と交流している。③「なんとかなる！」(前向きと楽観因子)前向きで楽観的である。④「ありのままに！」(独立と自分らしさ因子)周りの目を気にせず自分らしく生きる。

この4つの因子の実践は私にもできそうです。皆さんも早速実践してみませんか？